

2020 年度 医学部 IR 報告書

— 医学部 5 年次における卒業コンピテンス・コンピテンシー
到達度調査（学生自己評価） —



藤田医科大学 | R推進センター
医学部 | R分室

2020 年 9 月 30 日

藤田医科大学 I R 推進センター

医学部 I R 分室

2020 年度 医学部 IR 報告書

— 医学部 5 年次における卒業コンピテンス・コンピテンシー 到達度調査（学生自己評価） —

1. 医学部 5 年次における卒業コンピテンス・コンピテンシー
到達度調査（学生自己評価）の概要
2. コンピテンス・コンピテンシー自己評価の集計・分析結果

2020 年度 医学部 IR 報告書

ー 医学部 5 年次における 卒業コンピテンス・コンピテンシー到達度調査（学生自己評価）ー について

本学の教育目標を達成するため、教育及び学生支援に関する諸データの統合分析と情報提供等を行い、本学の教育活動の充実発展に寄与することを目的として、藤田医科大学 I R（Institutional Research）推進センターが設置されています。今回、下部組織の医学部 I R 分室では、2020 年度 6 年生を対象として 5 年次における卒業コンピテンス・コンピテンシーの到達度調査（学生自己評価）を実施・分析しましたので、その結果について報告いたします。

2020 年 9 月 30 日

2020 年度 藤田医科大学 I R 推進センター 医学部 I R 分室

飯塚成志、古澤彰浩、一瀬千穂、若月徹、川戸美由紀、藤江里衣子、

山本正樹、中村早紀、島向健太、横田正明

1. 医学部 5 年次におけるコンピテンス・コンピテンシー 到達度調査（学生自己評価）の概要

1－1）背景と目的

本学医学部は従来プロセス基盤型教育を行ってきたが、2015 年度第 1～3 学年よりアウトカム（学習成果）基盤型教育を採り入れた新カリキュラムに移行している。これに伴い医学部の使命に基づき、卒業時にすべての本学卒業生が身につける能力として「卒業コンピテンス（I～VII の 7 領域）」「卒業コンピテンシー（計 37 領域、現在 35 領域）」を定めた。低学年における教科から、テーマに沿って段階的に実践力（応用力）を積み上げていき、卒業時に身につける能力をパフォーマンス・レベルとして評価する。

このような手法は全国の多くの医学部・医科大学で採用されているが、現時点では卒業コンピテンス・コンピテンシーの多くの項目に対する有効な評価方法は確立していない。仮に知識や診察・診療技術は従来型の様々な試験で評価可能としても、プロフェッショナリズム・コミュニケーション能力・専門職連携の実践・独創的探究心等が卒業時に「実践できる」ことをどのような手法で評価するのかは難しい問題である。そもそもの程度、どう実践できればよいかの基準が明確となっていない。従来こうした項目は信頼性・妥当性を有する方法では評価されずに、あるいはまったく評価のないままに卒業させていたということもできる。

しかしながらこうした項目について、各学年においてどの程度修得しているかを調査し、カリキュラムに反映させていくことの重要性は論を待たない。そこで 2017 年度以降、各学年、および卒業時において、卒業コンピテンス・コンピテンシー到達度の自己評価アンケートを実施している。結果は医学部のカリキュラム全体を俯瞰した改善に資するため、利用するものとする。

1－2）実施方法

2020 年 9 月 4 日時点で在籍している医学部 6 年生に協力を仰ぎ、アンケートを実施した。学生自身が 5 年次終了時点で、卒業コンピテンシー 37 項目のそれぞれに対しどの程度到達していたと考えるかについて、6 段階リッカート尺度により自己評価を得た「4」を自身の考える最低水準が修得できたものとしている。アンケートは無記名の自記式調査票を用いた連結不可能な匿名調査である。学生への案内文、および調査票を巻末に示す。

2. 卒業コンピテンス・コンピテンシー自己評価の集計・分析結果

卒業コンピテンス・コンピテンシー自己評価の調査結果を以下に示す。

2-1) 実施状況

自己評価調査の実施状況を示す。

対 象 者： 107 名（2020 年度医学部 6 年生）

調査日時： 2020 年 9 月 4 日（金） 17 時半～18 時

回 答 者： 109 名（回答率 100 %）

2-2) 集計結果

各項目自己評価リッカード尺度平均の集計結果一覧、およびグラフにしたものが図 1 である。各コンピテンスの平均と SD は、その下位項目にあたるコンピテンシー項目の全平均により算出した。

2-3) 分析結果

今回のコンピテンス・コンピテンシー項目は 2020 年度入学生から改訂された新しい項目であり、今回の対象者に対しては直接的に導入されていない項目である。しかしながら新項目は旧項目の文言や内容を明確にしたり、時代に合わせたりするために修正・導入された項目である。また 2019 年度以降は新規コンピテンス・コンピテンシーを修正前の内容と整合性を取りつつ、全学年カリキュラムに導入している。今後同様の調査を全学年を対象として経年的に行っていくにあたり改善の成果の比較が可能となることを踏まえ、新コンピテンシーについての自己評価を実施した。

また実施時期は COVID-19 の影響等により調査を円滑に実施できなかったため、6 年次 9 月初頭の段階で 5 年次終了時点での到達度を自己評価してもらうこととした。

6 段階評価の平均は 35 項目のコンピテンシーいずれの項目においても 3.738～5.103 の範囲であり、全項目の平均は 4.692 であった。4 以上を「最低限は修得できた」と評価していることを踏まえると、5 年生終了時の段階で多くの項目を最低限は修得できた、と考えている学生が多いことが読み取れる。

絶対評価としての信頼性・妥当性は不明であるが、各項目間の評価を比較すると、際立った一定の傾向が見いだされる。

特にプロフェッショナリズム・コミュニケーション能力・専門職連携の 3 コンピテンスで、すべての下位コンピテンシーで高い自己評価がなされていた。特に「I-4. 個人の尊厳を尊重し、利他的、共感的に対応できる。」「II-1. 患者ならびに家族との良好な人間関係が構築できる。」のコンピテンシーが際立って高評価となっており、共感と利他に基づく人間関係構築については十分に修得していると自己評価していることが読み取れる。アセンブリ精神を特色とし、プロフェッショナリズム教育にも重きを置く本学教育の効果と考えられる。

一方低評価のコンピテンシーに着目すると、「V-4. 海外での研究に従事することができる基礎的な語

学力を有する。」が 3.738 となっており、ついで「IV-3. 診療に必要な基礎的な医学英語力を有する。」が 3.864 と最も低い評価であった。多くの回答者が英語本学医学部では 1～3 年生では英語教育に力を入れており、Native Speaker を講師とする少人数教育も行われているため残念な結果となっている。ただし、ここでの語学力は単に「英語力」「英会話力」というよりも「海外で研究に従事できる・・・」「診療に必要な・・・」語学力ととらえることができる。いずれも本学カリキュラムでは英語（もしくはその他の言語）で実践的に行われているとはいいいがたい。

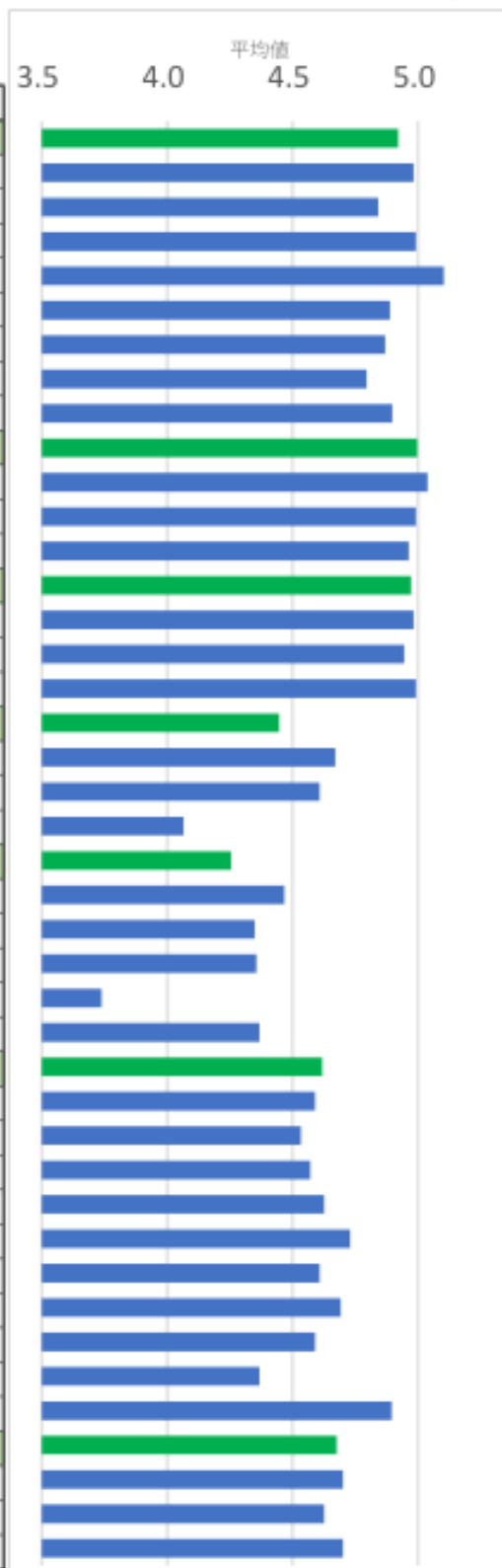
英語教育は本学医学部でも重点課題として取り上げられ、様々なカリキュラム改善の試みがなされているところであり、その効果に期待したいところであるが、今後は専門教育課程の一環として組み入れられた形で、医学研究や医療に必要な英語教育の導入も検討されるべきであろう。

一方、コンピテンスⅤ「独創的探究心」の語学力以外の下位項目も低評価である。藤田ビジョンでも目標に掲げられている「研究マインドの涵養」が重要な課題であることが浮き彫りとなった。2020 年度から 3 年生の 2 月に 4 週間、研究室で医学研究の実際を学ぶ「医学研究演習」が導入されることもあり、今後はこの効果について注視していきたい。また他学年でも学術論文を読み討論したり、内容を発表するなど、各学年で研究マインド涵養を取り入れたカリキュラム導入を検討すべきであろう。

図1. 2019 年度医学部5年生卒業コンピテンス/コンピテンシー自己評価アンケート 結果一覧

有効回答率 100 % (107 名中 107 名) 全項目の平均は4.692 SDは0.928

コンピテンス/コンピテンシー項目	平均	SD
I 医師としてのプロフェッショナリズム	4.921	0.803
1. 医師として常識ある行動がとれる。	4.981	0.723
2. 医療にかかわる法令を理解し遵守できる。	4.841	0.763
3. 医療倫理について理解し、それに基づいて行動ができる。	4.991	0.803
4. 個人の尊厳を尊重し、利他的、共感的に対応できる。	5.103	0.808
5. 自己評価を怠らず、自己研鑽できる。	4.888	0.765
6. 適切な助言、指導ができ、助言、指導を受け入れることができる。	4.869	0.810
7. 社会から期待される医師の役割を説明できる。	4.794	0.817
8. 生涯にわたって自律的に学び続けることができる。	4.897	0.885
II コミュニケーション能力	4.997	0.826
1. 患者ならびに家族との良好な人間関係が構築できる。	5.037	0.819
2. 患者の心理・社会的背景を踏まえながら、患者ならびに家族の意思決定を支援できる。	4.991	0.815
3. 医療スタッフとの円滑な意思疎通ができる。	4.963	0.842
III 専門職連携	4.972	0.829
1. 他職種役割を理解し、尊重することができる。	4.981	0.831
2. 医師の役割を理解し、これに基づいて行動することができる。	4.944	0.818
3. 患者の健康問題を解決するために、多職種で協力することができる。	4.991	0.837
IV 医学および関連領域の知識	4.447	1.014
1. 人体の正常な構造と機能発達、成長、加齢、死などの生命現象および心理・行動について説明できる。	4.670	0.866
2. 患者の病態・診断・治療を医学やEBMなどの根拠に基づいて説明できる。	4.607	0.883
3. 診療に必要な基礎的な医学英語力を有する。	4.065	1.154
V 独創的探究心	4.255	1.060
1. 自らの考えや疑問点を検証するための科学的方法を学び、学術・研究活動に関与することができる。	4.467	0.900
2. 論文等の情報を適切に収集することができる。	4.349	0.972
3. 収集した情報を論理的、批判的に吟味し、自分の意見を加えて発表できる。	4.355	0.909
4. 海外での研究に従事することができる基礎的な語学力を有する。	3.738	1.307
5. 研究倫理・コンプライアンス・利益相反(COI)について理解する。	4.368	0.994
VI 診療の実践	4.617	0.855
1. 病歴を正確に聴取し、必要な身体診察ができる。	4.589	0.864
2. 基本的臨床手技を安全に実施できる。	4.533	0.940
3. 病歴・身体所見より鑑別診断を挙げ、必要な検査を選択し、その結果を評価できる。	4.570	0.887
4. 頻度、又は、緊急性や重症度の高い疾患・病態の診断・治療の計画を立てることができる。	4.626	0.837
5. 診療計画を立てる際、患者や家族の価値観を考慮できる。	4.729	0.815
6. 診療録を正確に記載し、診療情報をプレゼンテーションすることができる。	4.607	0.829
7. 症例についての要約(サマリー)を作成し、情報共有することができる。	4.692	0.836
8. 病状説明や患者教育に参加することができる。	4.589	0.853
9. 安全な医療を提供できる。	4.368	0.482
10. 個人情報保護を理解し、厳守できる。	4.895	0.788
VII 社会と医療	4.676	0.918
1. 社会と健康の係わりを理解し、疾病予防と健康増進に取り組むことができる。	4.701	0.856
2. 保健・医療・福祉の現状を把握し、社会資源を活用してその改善を図ることができる。	4.626	0.952
3. 地域医療・介護に貢献することができる。	4.701	0.939



次ページ以降に調査の案内文と調査票を示す。

<以下 アンケート用紙全文>

2020 年 9 月 4 日

6 年生の皆様へ

IR 推進センター 飯塚 成志
教務委員長 長崎 弘

IR 推進センター・医学部分室よりお願いがございます。

※IR 推進センターとは、アンケート調査や業務データを分析することによって教育等で目的とした成果が達成されているかなど検討し、教育や運営方針の改善に役立てていくための学長直下の学内組織です。

現在の医学部カリキュラムは卒業時に本学学生ができるようになっていること、すなわち「卒業コンピテンス・コンピテンシー」に基づき策定されています。6 年生の皆さんが、M5 のカリキュラム修了時点で、どの程度到達していたと考えているか（自己評価）を本アンケートにてお伺いしたいと思います。ご自身の主観的な評価で結構です。

アンケートの記入は、ご自身の学修成果が見える化するとともに、後輩のカリキュラム改善における貴重なデータとなります。

国試に向けた勉強中のアンケートとなり、お疲れのところ大変恐縮ですが、アンケートにご協力いただけますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

次ページからの各項目について、M5 カリキュラム修了時点のあなたが自分自身から見てどの程度修得しているかを以下の 6 段階で評価してお答えください。

- 6 : 完全に修得できた
- 5 : 概ね修得できた
- 4 : 最低水準は修得できた
- 3 : ある程度修得したが、最低水準には届かない
- 2 : 十分に修得できていない
- 1 : 全く修得できていない

なお本アンケートは個人が同定されない形で集計・解析し、今後の本学医学部カリキュラム改善のためにのみ使用されます（医学部教授会等承認済）。

3 : ある程度修得したが、最低水準には届かない	6 : 完全に修得できた
2 : 十分に修得できていない	5 : 概ね修得できた
1 : 全く修得できていない	4 : 最低水準は修得できた

あなたの考える卒業生としての最低水準を4とし、自身を6段階で評価してください。

I 医師としてのプロフェッショナリズム						
藤田医科大学医学部学生は、卒業時に倫理観、責任感、協調性を持って行動できる。また、生涯にわたり向上心を持ち自己研鑽に励むことができる。						
1	医師として常識ある行動がとれる。	1	2	3	4	5 6
2	医療にかかわる法令を理解し遵守できる。	1	2	3	4	5 6
3	医療倫理について理解し、それに基づいて行動ができる。	1	2	3	4	5 6
4	個人の尊厳を尊重し、利他的、共感的に対応できる。	1	2	3	4	5 6
5	自己評価を怠らず、自己研鑽できる。	1	2	3	4	5 6
6	適切な助言、指導ができ、助言、指導を受け入れることができる。	1	2	3	4	5 6
7	社会から期待される医師の役割を説明できる。	1	2	3	4	5 6
8	生涯にわたって自律的に学び続けることができる。	1	2	3	4	5 6

II コミュニケーション能力						
藤田医科大学医学部学生は卒業時に、お互いの立場を尊重して、相手から信頼される関係を築き、適切なコミュニケーションがとれる。						
1	患者ならびに家族との良好な人間関係が構築できる。	1	2	3	4	5 6
2	患者の心理・社会的背景を踏まえながら、患者ならびに家族の意思決定を支援できる。	1	2	3	4	5 6
3	医療スタッフとの円滑な意思疎通ができる。	1	2	3	4	5 6

III 専門職連携						
藤田医科大学医学部学生は、卒業時に、専門職連携を理解し、実践できる。						
1	他職種の役割を理解し、尊重することができる。	1	2	3	4	5 6
2	医師の役割を理解し、これに基づいて行動することができる。	1	2	3	4	5 6
3	患者の健康問題を解決するために、多職種で協力することができる。	1	2	3	4	5 6

IV 医学および関連領域の知識						
藤田医科大学医学部学生は、卒業時に医療の基盤となる基礎、臨床、社会医学等の知識を持ち、これらを応用できる。						
1	人体の正常な構造と機能発達・成長・加齢・死などの生命現象および心理・行動について説明できる。	1	2	3	4	5 6
2	患者の病態・診断・治療を医科学やEBMなどの根拠に基づいて説明できる。	1	2	3	4	5 6
3	診療に必要な基礎的な医学英語力を有する。	1	2	3	4	5 6

3 : ある程度修得したが、最低水準には届かない	6 : 完全に修得できた
2 : 十分に修得できていない	5 : 概ね修得できた
1 : 全く修得できていない	4 : 最低水準は修得できた

V 独創的探究心

藤田医科大学医学部学生は、医学研究の必要性を十分に理解し、卒業時にグローバルな視野に立って科学に興味を持ち、疑問点に対して解決するために行動することができる。

1	自らの考えや疑問点を検証するための科学的方法論を学び、学術・研究活動に関与することができる。	1	2	3	4	5	6
2	論文等の情報を適切に収集することができる。	1	2	3	4	5	6
3	収集した情報を論理的、批判的に吟味し、自分の意見を加えて発表できる。	1	2	3	4	5	6
4	海外での研究に従事することができる基礎的な語学力を有する。	1	2	3	4	5	6
5	研究倫理・コンプライアンス・利益相反（COI）について理解する。	1	2	3	4	5	6

VI 診療の実践

藤田医科大学医学部学生は、卒業時に患者およびその家族に対しての共感的態度をもち、科学的根拠に基づいた安全な診療を実施できる。

1	病歴を正確に聴取し、必要な身体診察ができる。	1	2	3	4	5	6
2	基本的臨床手技を安全に実施できる。	1	2	3	4	5	6
3	病歴・身体所見より鑑別診断を挙げ、必要な検査を選択し、その結果を評価できる。	1	2	3	4	5	6
4	頻度、又は、緊急性や重症度の高い疾患・病態の診断・治療の計画を立てることができる。	1	2	3	4	5	6
5	診療計画を立てる際、患者や家族の価値観を考慮できる。	1	2	3	4	5	6
6	診療録を正確に記載し、診療情報をプレゼンテーションすることができる。	1	2	3	4	5	6
7	症例についての要約（サマリー）を作成し、情報共有することができる。	1	2	3	4	5	6
8	病状説明や患者教育に参加することができる。	1	2	3	4	5	6
9	安全な医療を提供できる。	1	2	3	4	5	6
10	個人情報保護を理解し、厳守できる。	1	2	3	4	5	6

VII 社会と医療

藤田医科大学医学部学生は、卒業時に保健・医療・福祉の施策に協力し、これらを推進し、公衆衛生の向上と増進に寄与できる。

1	社会と健康の係わりを理解し、疾病予防と健康増進に取り組むことができる。	1	2	3	4	5	6
2	保健・医療・福祉の現状を把握し、社会資源を活用してその改善を図ることができる。	1	2	3	4	5	6
3	地域医療・介護に貢献することができる。	1	2	3	4	5	6

ご協力ありがとうございました。